

中学校区におけるめざす子ども像 自ら学び 自ら取り組み 自ら表現できる子どもの育成	堺市立五箇荘小学校 校長 廣瀬 努
--	----------------------

令和6年度 教育目標「地域とともに輝く子」 重点目標 「心が育つ きれいな学校」 重点課題 ①「総合的な学力の育成」・学びのコンパスを踏まえた子どもが探究的に学ぶプロセスを重視した授業改善・自律的に学ぶ力を育成する家庭学習習慣の定着 ②「心の教育の推進」・教育活動全体を通じた人権教育の推進・あいさつの響きあう学校に向けて・『特別の教科 道徳』を要とした道徳教育の推進・読書指導の更なる充実・問題行動の早期発見・早期指導・積極的生徒指導の推進 ③「健康・体力づくりの充実」・食育の推進・運動の楽しさを実感できる授業改善・健康教育の推進 ④「特別支援教育の推進」・障がいの状況に応じた指導の充実・特別支援コーディネーターを核とした校内支援委員会の充実・支援学級と通常学級との交流の充実・障がいに応じた特別の指導を特別な場(通級指導教室)で受ける指導形態の設置 ⑤「家庭・地域・関係諸機関との協働」・外部人材の積極的活用とPTA・地域行事への積極的参加・学校教育アンケートの実施とアンケート結果の効果的活用・幼、小、中の連携・学校群による9年間を見通したカリキュラムの編成、学校間のさらなる交流 ⑥「児童の安全確保」・児童のけが、トラブルへの迅速な対応と未然防止・安全教育の充実・災害や不審者対応に向けた危機管理・安全管理体制の構築・食物アレルギー対応の徹底 ⑦「環境整備」・整理整頓・清掃活動の充実 ⑧「学校力・教師力の向上」・人権に関する認識を深め人権感覚豊かな教職員を目指す・組織的・継続的な校内研修の実施・ともに高め合う教師集団・個人情報の適正な取扱いと管理の徹底・服務規律の遵守と健康の保持・促進									
・昨年度、「ICTを活用し、自分の思いや考えを表現できる児童の育成」というテーマで、自分の思いや考えをもち、表現できるための一つのツールとしてICTを活用をした。そして、児童も教師も使いたくなる方法(発表ノートの共有、マーキング、グルーピング等)を研修を通して知ることができた。しかし、児童が思考を深めるためには、話し合い活動などを通して、人と人とのやりとりが必要である。 そこで今年度は、学習の居場所づくりを土台としながら、話し合い活動などの交流を通して、自分の考えを広げたり、他者の意見を取り入れたり踏まえたりしながら、自分の思いや考えを深めることができる児童をめざしていきたい。 ・「学習規律」「話す・聞くのやくそく」「声のものさし」の指導を、全学年継続して取り組んできた。このことから学習習慣を身に付け、学習環境を整えながら学習する児童は多い。しかし、今後も課題に取り組み学習習慣の向上が必要な児童もいる。 ・ICTについては堺市や全国平均より下回っている。				豊かな心・健やかな体の現状 ・昨年度と比較してみると、全体的に前年度より下回る種目が多いが、同一集団で比較すると1学年相応の伸びが見られる。各学年の運動に対する得手不得手の特徴が出ている。全体的に、堺市平均値とは差異はないが、立ち幅跳びと長座体前屈の記録が全体的に低い傾向にあるため、準備運動等で柔軟を取り入れ、継続的に取り組んでいきたい。 ・体育の運動で体を動かすことが好きになった児童が上昇傾向にある。体を動かすことが好きな児童が減らないように、体育以外でも体を動かす場や楽しさを広げていく必要がある。積極的に体育館開放など、運動す場や機会を広げていく。 ・体力づくりにおいて、なわとびを活用し今後も粘り強く、全体的な体力の底上げをめざし、体力向上に取り組んでいく必要がある。					

大項目	中項目	具体目標	具体的な取組 (●重点とする取組 ★中学校区での取組)	判断基準 (評価のものさし)	評価方法	評価時期	進捗確認 (年度途中)	達成状況(年度末)		
								自己評価	学校関係者評価	
確かな学び	授業力の向上	自分の思いや考えを表現できる児童の育成～話し合い活動を通して～	教科研修主題「自分の思いや考えを表現できる児童の育成～話し合い活動を通して～」に向けて学校群合同研修と校内研究授業を年5回行い、討議を全職員で行う。	・研究授業の実施回数	実施状況	2月初旬	◎	学校群合同研修や校内研究授業において、ICTを活用して(ハイブリット式)研究授業、討議会を進めている。	◎	学校群としての取り組みが進んでいることには大いに期待している。小学校と中学校で相互に影響し合いながら、ともに授業力を高めていただくことが、子どもたちの学力向上にもつながる。引き続き取り組みを続けてほしい。
			●教科研修主題の実現に向けて、ICTを効果的に活用できるよう低・中・高学年別に実態を調査、活用場面の検討を重ね、児童の思考や表現に生かせる授業展開を考え、日々の授業に取り組む。	・全職員で実施できている	実施状況 授業観察 研修でのふりかえり	毎月 2月初旬	○		○	
	の静謐な学習環境	学びに向かう姿勢の確立	学習規律(チャイム着席・下じきを使う・定規を使う・名前を丁寧に書く)を定着させる。	・児童アンケートで「学習規律を守っている」の肯定的回答が85%以上になる。	状態についての協議 児童アンケート 授業観察	毎月 12月頃	○	学習用具の正しい使い方や、チャイムに合わせてスムーズに授業を開始するなど、基本的な学習規律の定着にむけて指導している。	◎	学校としてしっかり取り組んでくれている成果が、アンケート結果にもよく表れている。引き続きこれからもこの取り組みを継続していただきたい。
			話す・聞くのやくそく(話を最後まで聞く・話し手の目を見て聞く・場に応じた声の大きさで話す・はい…です(ます)と言う)を定着させる。	・児童アンケートで「話すとき・聞くときの約束を守っている」の肯定的回答が85%以上になる。	状態についての協議 児童アンケート 授業観察	毎月 12月頃	○		◎	
豊かな心・健やかな体	体力の向上	体力向上をめざした授業研修	時期ごとに、児童が意欲的に取り組めるような運動例を全職員で共有し、体育科の授業向上を図る。	・児童アンケートで「体育の運動で、体を動かすことが好きになった。」の肯定的回答が85%以上になる。	状態についての協議 授業アンケート 授業観察	毎月 12月頃	○	児童が意欲的に取り組めるよう、工夫を凝らした体育科授業を展開し、全児童が参加しての体育大会を実施した。安全に十分留意し、学校水泳を実施した。	○	コロナの時期も明け、本格的に活動が再開し始めた。たくさんの活動を通して、子どもたちの体力向上につなげてほしい。学校群として、中学校での陸上部や水泳部の活動が目覚ましいところは、小学校からの積み上げもあるのかもしれない。
			体力向上につながる授業実践と行事の計画	過年度の結果をもとにして、各学年の苦手種目の動きを高めるための運動を年間を通して行う。	・全学級で実施できている。 ・昨年度の体力テストの結果よりも向上が見られる。	状態についての協議 体力テスト 授業観察	毎月 12月頃		○	
		全児童が参加できる運動が中心となるような体育的行事を計画し取り組む。		・全学級で実施できる体育的行事を実施している。	実施状況	2月初旬	○	◎		
	自尊感情の育成	人を思いやるきれいな心を育む	各学年の実態に応じ、道徳や学級活動で互いの良さを認め合う取り組みを行う。	・全学級で実施できている。	状態についての協議 授業観察	毎月 12月頃	○	常に職員間で児童の様子を共有しつつ、道徳や総合学習を中心に、日常生活の中でも互いに思いあう心の指導に取り組んでいる。	○	心を育てることもとても大切。学校として教職員全体で取り組む姿勢は、これからも続けてほしい。
			全職員がいじめ防止に対する知識を持ち、児童が安心して登校することができる学級環境をつくる。道徳や学級活動でいじめ問題、上手な友達のかかわり方など、他者理解につながる取り組みを行う。	・全学級で実施できている。	状態についての協議 生活アンケート 授業観察	毎月 12月頃	○		○	
			なかよし活動(異年齢交流)を毎月1回行い、助け合う心、思いやる心を育む。	・実施できている。	状態についての協議 児童の様子	毎月 12月頃	○		○	
	児童会でのあいさつ運動や朝礼や各学級であいさつ指導をすることで、児童アンケートでは92%が「自分からあいさつをしている」に対して肯定的な回答をした。		◎	地域の子どもたちは、現実として少なくなってきた。それでも子どもたちはやはり地域の宝であり、みんなで大切に育ていきたい。今後は、校区同士で協力したり合併したりするという方法もあるのかもしれない。いろいろな方法を模索することも大切である。						
	地域協働	子の育成	自ら進んであいさつする子を育てる	児童会が中心となり、児童への啓発を行い、校区交通指導員やPTA安全見守り隊の方へ感謝の気持ちを伝える機会を設るなど、進んであいさつをする子を育てる。	・対面式とあいさつ運動の実施 ・児童アンケートで「すすんであいさつをしている」の肯定的回答が85%以上になる。	実施状況 児童アンケート	12月頃 2月頃	○	全体朝礼や日々の指導の中で自分から気持ちのこもったあいさつの声を相手に届けることを指導している。また、地域ボランティアによる読み聞かせ等の教育支援をいただいている。	○
活用人材		地域人材を活用した学校への支援体制をつくる	コミュニティスクールコーディネーターや教育ボランティアによる教育活動への参画ならびに授業支援の実施。	・全学年で実施できている。	実施状況	毎月 2月頃	◎			

校長より(年度末) すべての項目で教職員全体で共通理解を図り、概ね達成することができた。本校のめざす児童像である「知(よく考える子)・徳(助け合う子)・体(元気でやりぬく子)」の達成にもバランスのとれた教育を工夫して展開することができた。さらに五箇荘学校群として、3小1中で合同授業研究や合同夏季研修、保護者進路説明会など様々な取り組みを行い、子どもたちだけでなく職員同士も交流する機会が増えた。 「地域協働」においても、交通指導や見守り活動、ふれあい喫茶や自治会防災訓練の地域活動や、ぴかぴか大作戦や講演会、祭りの巡回等のPTA活動も実施することができた。また、可能なかぎり参加をし、地域とともに子どもを育てる体制の確立に取り組むことができた。 今後も教育目標である「地域とともに輝く子」の育成に教職員一丸となってさらに邁進していきたい。	学校関係者評価者から(年度末) 学校としての取り組みや学校アンケートの結果からは、様々な取り組みの成果が表れており、とてもよくやっていたと感じる。教職員の皆様の日ごろからの努力が成果となり、大変感謝している。今後も、課題に向けた学習活動の計画や研究、実践を行い、地域・家庭と協働をより深め、良い学校づくりに努力されることを期待する。また働き方改革の観点からは、児童数とともに教職員の数が減ることも考慮しつつ、子どもたちにとって大切なこととのバランスを考えながら進めていくことが望まれる。五箇荘学校群の取り組みについては、子どもたちの9年間を見通した小中一貫カリキュラムのもとで、系統性と連続性を意識した授業の向上を期待する。
---	---